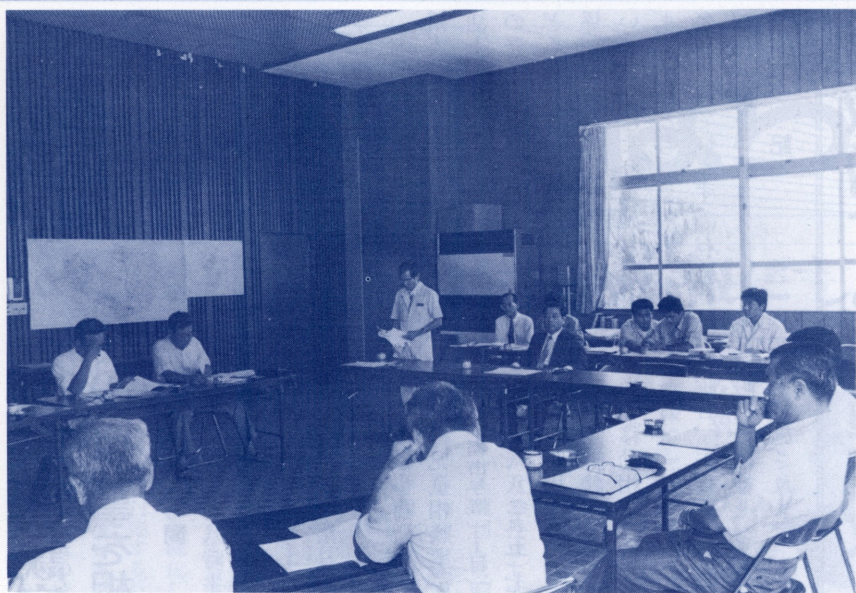




「西原町土地画整理審議会」を設置、上原棚原地区土地画整理事業に着手：7月26日、町役場

健全で活力ある「文教のまち西原」めざす

西原町土地画整理審議会を設置

住宅地造成で市街地環境向上を図る

本町は、那覇市、浦添市、宜野湾市に隣接、また、琉球大学の移転などにより人口も急激に増加、土地利用においても、農業的土地利用から都市的土地利用へと大きく変容しつつあります。

町（平安恒政町長）では、昭和六十一年度、土地利用計画に基づき、無秩序な乱開発を整備改善し、健全で活力のある「文教のまち西原」にふさわしい住宅地の造成を行う、市街地環境の向上に寄与するため、『上原・棚原地区土地画整理事業』に着手。

関係地域への事業説明会なども完了、調査測量実施計画、換地計画等の事業を実施している所であります。

去る、七月二十六日午後、町では、那覇広域都市計画事業上原棚原地区土地画整理事業を正確かつ早急に事業を推進するための『西原町土地画整理審議会』を設置した。

同審議会の設置にともない「西原町上原棚原地区土地画整理審議会」委員への当選証書附与式が行なわれ平安町



発行所
西原町役場
〒903-01
西原町字嘉手苅112番地
電話 (09894)-5-4533
印刷
(協) 丸正印刷

町の世帯・人口
(昭和63年7月末現在)
世帯数 7,233世帯
人口 24,500人
男 12,547人
女 11,935人

7月の人口移動
出生 34人 死亡 8人
転入 157人 転出 145人
婚姻 8件 離婚 2件

第七回西原まつり11月5日・6日

町民参加で産業、教育芸能文化を振興

第七回西原まつり実行委員会（平安恒政会長）主催による第七回西原まつりが、十一月五日（土）、六日（日）の両日西原東小学校運動場・体育館において開催されます。

西原まつりは、地域産業、教育芸能文化の振興を図り、町民相互の融和とより一層の町民意識の高揚をもって、「明

るい町」、「平和な町」、「豊かな町」づくりに寄与することを目的に行なわれます。

第七回西原まつりでは、各部落に伝承される獅子舞をはじめ、琉球古典音楽の大合奏、各小・中・高等学校の吹奏楽演奏や出展、各種民謡団体の集団演技、農業生産団体及び個人等の農産物、手工芸品等

の出演、カラオケ大会、民謡ショー、踊りの夕べ、花火大会などの盛りだくさんの行事が予定されております。

同実行委員会では、町民の西原まつりへの積極的な参加を呼び掛け、「第七回西原まつり」の成功に向けて取り組みを強化していくことにしている。

親子で戦災跡地を追体験

平和の尊さ正しく伝承

親子で学ぶ戦争追体験平和バスツアーが八月十九日午前九時町中央公民館をスタート。平和バスツアーは、風化し



町内、町外の戦災跡地を巡り平和の尊さ
悲惨な戦争を追体験：8月19日、町中央公民館

の悲惨さ、無益さを知り、平和の尊さを学び、平和に対する町民の意識の高揚を図ろうと西原町、町教育委員会が共催したもの。

平和バスツアーには、町内の親子のほか、町中央公民館の少年少女夏季講座の受講生ら百三十余人が参加。

一行は、去る大戦による戦没者七千余柱の英霊が合祀された「西原の塔」をはじめ、小波津の旧日本軍陣地壕、首里の第三十二軍司令部壕跡、南風原陸軍病院跡、玉城村の糸数壕（アブラカマ）、糸満市の平和祈念資料館、ひめゆりの塔、第三外科壕などを实地見聞した。

遠足気分に参加したというお母さんは、「戦災跡地や平和祈念資料館などを自分の足で、目で実践に体験しているうちに、戦争のおそろしさと平和の尊さを実感しました。二度と戦争が起らないことを願いたい。」と一言。

9月21日に開設、ご利用を！

特設人権相談所

地域住民の基本的人権の擁護と人権思想の普及高揚を図る特設人権相談所が、九月二十一日（水）、左記により開設されます。

記

一、日時

昭和63年9月21日（水）
午前10時～午後4時

二、場所

西原町役場二階会議室

四、相談内容

人権問題、土地、住宅、金銭貸借、相続、戸籍、登記、交通事故その他法律問題、児童生徒間のいじめ問題等

21世紀を創造する「人間性豊かな文教のまち西原」

ご存知ですか、家庭児童相談室

ごどもについての悩み事を相談

「家庭児童相談室」を御存知ですか。

○歳から十八歳までのお子さんについて、日頃悩んでおられる問題や妊婦の出産費用等についての相談室です。

南部福祉事務所、家庭児童相談室では、こどもの日常生活上のしつけ、知能やことばの発達、心身に障害のあるこどもの福祉、家庭内の人間関係、非行、家出等の問題について左記により実施しております。こどもについての悩み事は一人で悩まず、お気軽にご相談下さい。

記

一、相談日と時間

月・金 午前八時半～午後五時十五分

土・日 午前八時半～十二時半
◎但し、日曜日祭日は休み。

二、連絡先

南部福祉事務所
家庭児童相談室

〒900 那覇市与儀一丁目一番24号

☎〇九八八(五五)七二〇四

西原町役場福祉課

☎五五〇一(一)(内13)

※尚、移動相談は、九月・十一月・一月・三月の第四水曜日、午後二時～四時まで町社会福祉センターにおいて実施されます。

激増する交通事故

全町民で歯止めを

本県の交通事故死事故は、八月三日現在五三件発生し、五五名の方が亡くなっております。特に六月は浦添市牧港で一件で二名の方が亡くなったのをかわきりに六月二〇日までの短期間に七件で八名が亡くなり、沖縄県交通安全推進協議会長である県知事は「交通事故死事故多発非常事態宣言」をしました。その後暫らくは小康状態を続けておりましたが、七月に入っても九件発生し二日に一人の割合で交通事故の犠牲者が出ており、更に八月に入っても死亡事故はあつた状態であり、若年層層の週末深夜のスピード出し過ぎによる車両単独の自爆型が多く、

浦添警察署管内は別表のとおり対前年比で発生、死者、負傷者のいずれも増加しております。特に子供達の道路上下への飛び出し事故が多発しているため、学校や保育所、各自治会等関係機関等に対し、子供達への注意指導の協力要請をしているところであり、町民の皆様におかれましては正しい交通ルールと交通マナーの実践に努められ「文教のまち、西原」から地域ぐるみで悲惨な交通事故を一件でもなくすようご協力をお願いいたします。

1. 交通事故発生状況 (浦添警察署管内、8月3日 現在)

市、町、年度別		発生件数	死 亡	重 傷	軽 傷
浦 添 市	昭和62年	107件	5 件	15件	87件
	" 63年	138	4 (6)	20	114
西 原 町	" 62年	28	0	3	25
	" 63年	42	0	7	35
計	" 62年	135	5	18	112
	" 63年	180	4 (6)	27	149

注 死亡の()は死者数である。

2. 子供の飛び出し事故

市、町別		1才	2才	3才	4才	5才	6才	7才	8才	9才	10才	11才	12才	計
浦添市	昭和62年		1	3	2	8		2	3	1	1			21
	" 63年			1	5	2	3	1		1			1	14
西原町	" 62年					2		1						3
	" 63年					1							2	3

組織の充実、活性化に向けて

第16回町老若大会賑う



組織の充実、活性化を誓う
：7月26日、町中央公民館

町老人クラブ連合会主催、第十六回西原町老人クラブ大会が、七月二十六日午後一時より町中央公民館で開かれ町内各老人クラブ会員約四百名余が参加した。

大会には、平安恒政町長はじめ、親泊輝武町議会議長ら来賓多数も参加、全員による全国老人クラブの歌斉唱で始まり、①昭和六十二年度事業報告及決算報告②昭和六十三年度事業計画及予算などを審議決定。

その後、町老人クラブ活動に対する功労者七人、高額寄付者三人、優良団体一団体に表彰状及び感謝状が贈られた。また、今大会を契機として「組織の充実と会員個々の活動を積極的に取り組む」趣旨の大会宣言も採択、大会終了後、レクリエーション大会を催し、各区より琉舞などの披露が行われ賑った。

なお、表彰状及感謝状を贈られた方々は次の通り。

▽表彰状、仲宗根ヨシ(一区老若)、宮里カメ(二区老若)

▽呉屋利子(七区老若)、喜屋武久真(十四区老若)、九区老若

▽感謝状・呉屋幸夫(前町老連会長)、喜納信徳(四区老若)

小橋川正世(十三区老若)、屋良朝智(四区)、新川崔吉

(八区)、宮城良精(十一区)、(以上敬省略)

児童館で「音の展覧会」

ロバの音楽座コンサート賑う

七月二十五日午後一時半、町児童館(平安恒政館長)では、「音の展覧会」と称し、「ロバの音楽座」コンサート公演が催された。Ⅱ(写真)この公演は、全国の児童館を巡回し、児童の情操を高めることを目的に厚生省が全国児童館連合会に委託している事業で、本町では、初めての公演となった。



体力・仲間づくりで水泳サークル結成
：西原小プール

婦人水泳サークル誕生

町教育委員会(稲福恭助教長)主催で開かれていた婦人水泳教室が七月十二日から四日間の日程で実施されたが受講生五十名余が参加、無事



県産食肉を見直し料理講習会
：8月16日、町中央公民館

県産食肉の拡大で調理実習

生改グループ員50名余が参加

昭和六十三年県産食肉調理実演講習会が、八月十六日午後、町中央公民館において開かれ、町内の生活改善実行グループから約五十名余が参加し研修を深めた。

これは、(財)沖縄県畜産公社主催、沖縄県農林水産部後援中部地区生活改善実行グループ講演会では、仲間桂男(ホテルシテイプラザ総料理長)先生を講師に①牛ソーキのバーベキュー風②牛の胃袋といかすみ煮込み③牛肉のチーズ包み焼きなどを実習。

昭和63年度 国民年金保険料4、5、6、7月分未納の方は、早目に最寄りの金融機関へ納付して下さい。

広報にしはら 第200号記念

21世紀へ向けて「広報にしはら」を展望する町民の声

「広報にしはら」第二〇〇号を迎えて



町長 恒政 平

町民の皆様、暑中お見舞い申し上げます。

町民の皆様には、日頃より町政に対し深いご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。次第であります。

さて、町政の施策、事業内容等を町民に提供し、批判とご理解、ご協力をいただき、発行されております「広報にしはら」が創刊以来、今月、九月号をもちまして第二〇〇号



町議会議員 親 泊 輝 武

「公報紙」の果たす役割

「広報にしはら」発行二〇〇号の節目にあたり、町議会を代表してその所感の一端を申し上げます。

近年公報紙の発行は各市町村とも盛んになって参りましたが、「広報にしはら」を創刊した昭和四〇年代初頭は、いわゆる米軍の施政権下の真只中で勃々としていた時代で、一般に自治体の発行する公報紙に対する関心も今日ほど高くなかったものであります。時代

の進展に伴って住民の自治意識も高まり、行政に対する住民の要求も増加とともに多様化して参りまして、それに対応する行政側においても行政の円滑な運営を遂行するうえから、公報紙の持つ意義を改めて認識するようになったと

を迎えることができました。

これも偏に、町民をはじめ関係機関、団体のご協力の賜だと深く感謝申し上げます。

「広報にしはら」は、町民と共に町政を民主的に運営するため、町政全般にわたる内容の紹介をはじめ、教育関係各種団体、の行事、地域活動の状況などを掲載し、町民の皆様にご理解とご協力をいただきながら町民と共に歩む行政を進めるため大きな役割を果すものと確信しております。

本町では、「対話行政」、「町民参加」、「反戦平和」の姿勢を基調に、自治の原点を

のと思っています。申すまでもなく、自治体の発展は地域住民の理解と協力の上に築かれるもので、いかなる施策も地域住民の理解と協力がなければ、その円滑な推進は困難であります。従って住民の理解と協力を求める機能としての公報紙の果たす役割はどんなに評価しても評価し過ぎることはないと思います。

ところで本町はご承知のように立地条件に恵まれ、とくに復帰を境にして地域開発が盛んになり、それに伴って人口も急速に伸びて参りました。住宅団地や大小店舗の進出などで漸次都市化の傾向を強めつつありますが、なかでも琉大の本町への移転を契機に、とくに坂田地域においてはその様相が一変し、商業地域として活気を呈しております。

日々都市化していく中で、調和のとれた住みよい活気ある町づくりに推進していくには、むしろ行政としての努力もさることながら

大切にし、「平和で活力ある文教のまち」づくりを推進しているところであります。

「広報にしはら」第二〇〇号を迎えるにあたり、町民各層よりの「広報にしはら」に対するご意見、要望などを拝聴し、今後の広報紙づくりに役立てていきたいと思っております。

終わりに、「広報にしはら」第二〇〇号発行に際し貴重なご意見を寄せて頂いた方々に対し感謝を申し上げ、今後、町民に愛され、親しまれる「広報紙」づくりに対する町民各位のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

住民の理解と協力がなにもまして肝要かと思っております。か、る意味において「広報にしはら」の果たす役割も今後一段と増すものと思っております。

おわりに、「広報にしはら」発行二〇〇号を契機に今後とも紙面の充実と合わせて住民に親しまれる公報紙づくりに一層のご努力をご期待申し上げ、所感の一端といたします。

町教育委員 長 浩 与那嶺

「広報にしはら」第二〇〇号発行によせて
広報にしはらは、町政の施策を

はじめ、価値ある内容を取りあげ広く町民にしらせ、活力ある町づくりに大きく貢献してきたことは今さら私から申し上げるまでもありません。

毎回発行された広報紙は適切な内容が盛り込まれ、文章表現も平易で読みやすく、人の心をひきつけ、親しみのある広報紙として、高く評価するものであります。

本紙の第二〇〇号の発行を機に、より充実した、よりすばらしいものにしていただき、本町がめざす「人間性豊かな文教のまちづくり」に、益々役立つよう、関係者皆様の今後のご精進をお願い申し上げますとともに、大いにご期待いたします。

町民の機関紙として

「広報にしはら」第二〇〇号を迎え、益々の充実発展を「これまで町民に親しまれ、着実に歩みつけて、二〇〇号発行を、お迎えしたことは、関係者の皆様と共によろこび申し上げます。

なお、これからも町民との唯一のコミュニケーションの情報紙として、また、文教のまちを築く町政の発展と共に、「広報にしはら」が、より充実した発行に努力され町民に広く愛読されることを期待いたします。

ご承知のように、本町は、三市三町村と隣接し、その地理的特性から活力に満ち、近年人口の増加率は、県内トップで、その発展ぶりは、近い将来大きな変化をもたらすものと考えます。そこで、み

じかに本町を理解し、町民の協力を得るためには、「広報にしはら」の果たす役割は益々重要であり、町民の機関紙として、飛躍発展することを願うものです。

意見要望になりますが、これまでの「広報にしはら」のイメージは、町サイドからの広報、また、町内各団体の行事、町民に関する代表的な出来事などが紙面に載せられたと思っております。

今後期待するものとして、①子どもたちの作品コーナーを設けて、地域の子ども会で、体験学習するそれぞれの思いを、作文や絵で表現した作品等を紹介できるチャンネルを与えることは、いかがでしょうか。②町民の日常生活の上で必要な、ミニ法律相談コーナーを取り入れ、顧問弁護士の協力を得て、指導していただくと、豆知識として、大へん役に立つものと思っております。

「広報にしはら」第二〇〇号を発刊に際して

「広報にしはら」二〇〇号発刊おめでとうございます。

さて、広報紙の役割とはまず住民に読まれることにあると思っております。しかし、現実問題として「広報にしはら」が町民全体に愛読されているか甚だ疑問を感じるのには私だけであろうか。例えば、広報に或る行事案内を記載しているが行事が終って後問い合わせがある場合が少なくなく、広報紙を読んでもいないと思われる節が見受けられます。では、何故読まないのかを考えてみると、一言でいって公（広）報紙は総体的に面白くない。面白くない理由として公報紙の特性で

ある行政側の意見、行事等を一方的に伝える道具として紙面作りがされているからだと思う。

前述したとおり公（広）報紙は読まなければならない意義が薄れるのであるから、紙面の都合もあるだろうが町民が関心を持ちそうな企画を担当の皆様と工夫で立案し掲載していただきたい。行政側からの一方的な広報ではなく町民とキャッチボールができる広報を作りあげていけばより一層充実した「広報にしはら」が出来るものと思っております。

多少の辛言となりましたが今後ともよりよい広報作りに尽力なされ「広報にしはら」の一層の発展と飛躍を三〇〇号、四〇〇号と続くことを祈念します。

第二〇〇号を迎えて

「広報にしはら」第二〇〇号発行おめでとうございます。この広報誌を読むことにより、町の財政状況や公共工事の整備状況などが一目で理解できるので、町政がとて身近に感じられるようになりまして。又、各地域の活動を紹介した記事も多く取り入れられ、記事の一つ一つに編集員の皆さんの御苦労が感じられます。私達町民にとって、行政の動きを知る機会ほとんどないので、「広報にしはら」の果たす役割はとて大きいと言えます。

このような広報誌が毎月各家庭に配布されているということは、私達のような若い年齢層にも行政に対する関心度を高める良い機会

（裏面へつづく）

新川さとみ

昭和63年高齢者交通安全運動実施期間：昭和63年9月11日(日)～9月20日(火)まで
安全へ つなぐ老いの手 幼い手

であり、とてもすばらしい事です。要望として、その季節に応じた「暮らしの知恵」などのような一口メモを取り入れてみてはどうでしょうか。

これからも町政と町民とを結び心の掛け橋として、各地域に根ざした広報誌であることを希望し、さらに町政を支えていく唯一の情報源として増々磨かれていくことを期待しています。

「広報にしはら」、いつまでも私の財産として、大切に保管していきたいと思えます。



字棚原786 城間富子

広報にしはらを読んで

月一度配られる広報にしはらを手にしたときの期待感、私は一ページ一ページ丹念に目をとおします。

町役場の各課からのお知らせ、各学校の出来事、各団体の事業の状況、議会の様子、各区の行事の紹介、その他数えたらきりがありません。

また、皆さんの記事が載っています。家事や育児におわって、外に出る機会が少なく、町行政を知るうえで、私達婦人にとってなくてはならない機関紙です。月一度はとも待ちどおしくて少ないような気がします。担当の皆様には大変ご苦労ですが増刊できな

いでしょ。又、課題を設けて意見交換のページがあれば更に興味ある広報紙になるでしょう。

そして、各部落にリポーターを置いて更に細かく、地域の情報を収集して載せて下さい。

更に町出身者の、他府県、他市

町村での活躍の状況も取り上げてみては!!

今後より一層の活躍を期待しております。頑張ってください。



字我謝194 平敷りつ子

町民の羅針盤

私達は毎日の新聞「新報・タイムス」によって、お互いを取りまく社会情勢を知り、それはいろいろな面での世論づくりへと広がっていく。

また「人間性豊かな文教の町西原」を自負している私達町民は、「広報にしはら」によって、町内における諸活動や諸行事、その他町内の諸々のできごとや、町民諸氏の御活躍等も知ることができ

知ると言うことは、自らの行動につながる。例えば「親子で平和を考える平和バスツアー」の記事を見て、平和創造への心ある人は参加を決めることだろう。

そのように「広報にしはら」を読むことによって、町民としてのなすべきこと、進むべき方向を決めることができる。

知らない土地で道に迷い、方向を失った人は、羅針盤をたよりに進む方向を決めるように、「広報にしはら」は私達西原町民一人ひとりの羅針盤であると、私は常々考えている。

「広報にしはら」を手にする度に、遠大な構想をもって緻密な計画のもとに施行しておられる町政の動き、そして限りなく飛躍しつつある西原町の姿が伺われて、町民としての誇りと、喜び、たのしみを感じている者の一人である。

その「広報にしはら」がこの度二百号という回に達することこまで継承発展させて来られた歴代の町の役職員、その課の方々に心から敬意を表し、ますますの発展を切に願うものである。



町商工会 城間三郎

「広報にしはら」

発刊二〇〇号を迎えて

「広報にしはら」が発刊され、来る九月号をもって第二百号を迎えるに当たり心からお喜び申し上げます。

ご存知のように「広報にしはら」は、我々西原町民の身近な新鮮な情報をより多く、わかりやすく長い間各家庭に配布されてきました。

そして、その内容も年々充実し日々の生活に豊かさを与える情報も数多いものがあり、ひそかに心待ちにしている町民も多いかと思

ます。ところで、このような身近な広報紙を、今後更に充実発展させるためには、町民の関心を引くものにすると同時にニーズを把握し、更に実りあるものにする努力と精進を今後とも関係者に希望する次第であります。

さて、近年西原町は人口増に伴う都市化現象が急速に進展しておりますが、地域開発も盛んに行われ、その変化は著しいものがあります。

特に、上原・棚原地区区画整理事業、中城湾港南部開発構想等大型プロジェクト、更に新設道などについては、その進捗状況を連載し、町民の関心を高めるようお願

いしたい。尚、広報紙は、一方通行ではなく、読者欄 投稿欄等を設けて対話方式を取り入れ身近な広報紙として町民に親しまれ、今後更に充実発展することを願

います。

最後に、「広報にしはら」の発刊関係者並びにこれまで協力してこられた方々に対し衷心より敬意を表すると共に今後共ますますご尽力下さることをお願いし挨拶と致します。



事務担任者会長 津波古元義

町民の情報源

「広報にしはら」二〇〇号の発刊おめでとうございます。事務担任者会を代表して一言感想を申し上げます。

広報紙は、町行政の内容を広く町民に知らせ、理解を深めさせると共に、町行政に対する町民の声や町内各種団体、各学校の諸行事・催物の様子等を掲載し、町内の情報源として非常に大事な役割を果たしています。

毎月、「広報にしはら」を配布しますと、一日も早く「広報にしはら」を手にし、読みたい、と待ちわびておられる町民が多数いらっしゃるというのを強く感じま

す。ただ、わずかなではありますが、広報紙を配布してもメールボックスや玄関先に置いたまま、放置してある所もあります。「広報にしはら」は、毎号、是非目をとおしてほしいものです。

昨年は海邦団体が開催され、開会式の諸行事や成年男子バスケットボール各県選手団の競技の様

ラー写真で紹介され、町民に大きな感動を与えました。

「広報にしはら」は、他市町村の広報紙に比べてもすばらしいで

きばえです。広報担当並びに関係者の皆様のご苦勞に対し、深く敬意を表します。今後も、ますます町民に親しまれ、喜ばれる広報紙づくりに頑張ってください。



字屋22 吳屋定子

町民の道標となる広報を!!

町民にあらゆる分野の情報を提供し続けてきた「広報にしはら」が二〇〇号の発刊を迎えたことに

対し、心からお祝いと感謝を申し上げます。

これまで、「広報にしはら」は、活字により感動、疑問、楽しみ、親しみを与え、また知識として多くの町民に活用されてきたのではないかと思います。このことは、広報なくしては全く明き盲同様にあり、従って、行政の動き、町全体の話題等を知る糸口として、その果してきた役割は大きなものがあるのではないのでしょうか。

町民コミュニケーションの推進及び媒体としての広報は、町発展に大きく貢献してきたと高く評価しております。

このようなことから、一言要望を申し上げるのは奥がましいのですが、「町民の声」とか、「声の広場」の欄を設けてはいかがでしょうか。いま、自己主張の時代といわれる中であって、きつと秘蔵的な発想、考えが投稿されるのではないかと思います。

る多様化の時代に、地域のユニークな出来事取材したり、文化欄を設けることにより、地域の伝統伝説、民話等の紹介を行い、地域文化の発掘、定着化を図る工夫も考えてよいのではないかと思います。

先人達の文化的遺産が次の時代の新しい文化として継承される機会にもなるでしょう。

今後、町民にとって、読み易く親しまれる広報、私たちのよりよい、何よりの道標となるように願うものです。



西原東中学校長 城間期一

おめでとうノ二百号

一号ずつの小さな積み重ねがついに二百号に達した「広報にしはら」。その地道な継続的な努力に対して「おめでとう」と大きな拍手を送りたい。

情報が氾濫する現代社会といえども、身近な情報に接することは

やはり親しみと温もりを感じるものである。

手頃なサイズに盛り沢山な内容視覚に訴える写真、イラスト等、親しみがもてるような工夫のあ

りかがわれる。

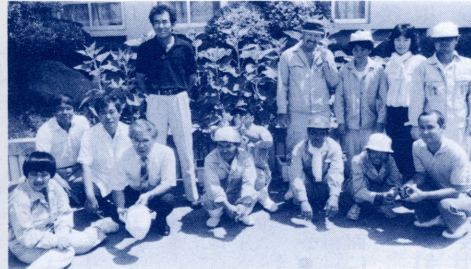
内容的には、町行政の方向や内容の紹介、各地域や学校、各種団体の活動状況の紹介、お知らせ、キャンペーン的な内容等と大きく分類されているようである。

町がめざしている「人間性豊かな文教のまち」づくりへの意気込みが感じられ、さらに町長さんが常日頃から強調しておられる「対話行政」の具体化でもあらうと高く評価したいものである。

町が進むべき道を全町民に理解をさせる努力から真の対話が生れてくるものと思ふ。

あと一つ、欲ばって言えば「読者コーナー」を設けて、肩のこらない随筆でも掲載したら如何なものか。さいごに、「広報にしはら」がますます充実発展することを祈念するとともに、後世、西原町の歴史を語るとき重要な証言記録になるであらうと期待するものである。

フォト・アイ



▲福祉法人・愛泉園よりヒマワリ四鉢が寄贈される。



▲夏休み少年少女夏季講座生が町内の名所・旧跡を見学

昭和63年度 西原町中央公民館『読書講座』のご案内

日時：10月1日(土)午後2時～4時 (毎週土曜日の計5回)

受付：昭和63年9月1日～30日 ☎5-3657 町中央公民館まで

まなぶ町民・きょういく広場

三分科会に六百人が参加 中頭地区PTA指導者が研修会

「児童・生徒の健全育成と学力向上を図るための学校・家庭・地域はどうかかわればよい」を大会テーマとする昭和六十三年中頭地区PTA指導者研修会が、中頭地区教育委員会主催、中頭地区中頭地区PTA連合会・中頭地区高等学校PTA連合会の

共催により八月十一日午前九時から、本町、町中央公民館を主会場に開催された。

研修会は、PTA活動の充実をめざし指導者相互の研修を行い資質の向上を図ることを目的としており、中頭地区の幼・小・中・高校のPTA役員など約六〇〇名が参加、第一分科会(幼小分科)、第二分科(中学校分科会)、第三分科(高校分科会)の三分科会ごとに事例発表、研究討議を深め、全体会においての分科

中学総体で見事、優勝 東中男子バレー、全国大会へ出場

西原東中学校(城間期一校長)男子バレーボール部が、第十五回中学校総合体育大会において、見事優勝を果たし七月二十六日、町役場を訪れ凱旋報告した。

西原東中学校は、今年四月に開校、去る五月の全沖縄中学校バレーボール選手権大会

においても、開校一カ月目で優勝を飾っている。

報告には、城間校長の外の山田政和監督、城間英一父母の会々長も参加、平安町長より、激励の言葉を述べた。

なお、同バレーボール部は八月八日、九日に行なわれた九州大会でもベスト四に入り宮城県での全国大会への出場権を獲得した。

優良賞三名、入選に十名 歯科保健図画・ポスター

歯科保健図画・ポスター

沖縄県歯科医師会学校歯科医会主催による昭和六十三年度(第二回)「歯科保健図画・ポスター募集」に、本町から三名が優良賞、十名が入選した。

各賞の受賞者は、次の通り。

【図画の部】優良賞・やまぐちゆかり(坂田小一年)。

▽入選・いしかわえり子(坂田小一年)、ひがまさと(同二年)

年、宮里織江(西原小二年)、金城靖(同三年)。

【ポスターの部】優良賞・森屋啓子(西原小四年)、平良千秋(同六年)、▽入選・富原匠(坂田小六年)、山城綾子(同六年)、向井恵理奈(同六年)、真栄城優子(西原小五年)、呉屋昌邦(同六年)、長嶺由人(同六年)。



九州大会、全国大会へ出場の西原東中バレー部：7月26日、町役場玄関前



全国制覇を成し遂げた西原東中なぎなた部のメンバー：7月27日、町役場

西原東中なぎなた部 全国制覇を成し遂げた

「全国制覇おめでとう」七月二十七日午前、西原東中学校(城間期一校長)なぎなた部が町役場を訪れ、全国制覇の凱旋報告を行った。

これは、昭和六十三年度全日本少年武道(なぎなた)練習大会、演技の部、個人試合の部で、ともに優勝を飾るという快挙を成し遂げたこと。

凱旋報告では、平安町長が「日頃の練習成果を発揮しての全国制覇おめでとうございませう。今後も、勉強にスポーツに頑張ってください」と激励の言葉を述べた。

尚、成績は次の通り。

【演技の部】優勝
・真栄城時子
・呉屋美根子
・名嘉勤子
・許田恭子組

【個人試合の部】
優勝・真栄城時子、名嘉勤子
▽敢闘賞
・呉屋美根子

西原東中、制服の色は紺 生徒の意見を尊重、決定

今年四月に開校した西原東中学校(城間期一校長)の生徒の制服が制定された。

同校は、母体校の西原中学校から分離、これまで西原中学校の制服を着用していた。

西原東中学校では、開校と同時に、制服制定委員会を発足、地域性、環境、校風、生徒の雰囲気(気質)などを考慮し、母体校とはっきり区別

できる制服の制定方針により制服づくりに取りかかった。

制定にあたっては①生徒へのデザイン公募②父母、生徒、教師へのアンケート実施③制服のデザイン検討(試作品)④試作品の職員及び生徒のアンケートなどを実施。

制服の決定については、あくまでも着る側の生徒の意見も最大限にとり入れ、生徒に愛される制服という点に重点がおかれている。

決定された制服は、母体校と色別し、統一性を考慮した



生徒の意見を取り入れた西原東中の制服(二学期より着用)

結果、色は紺、二学期より着用される。

○女子夏：セーラ服
冬：ブレザー

○男子夏：白いシャツ
冬：詰り

※制服の左胸の部分に学校名と姓が入る。

昭和六十三年交通安全作文募集

「我が家の交通安全」交通安全をなくすためには、国民一人一人が交通安全意識を高め、正しい交通ルールと交通マナーを実践することが必要です。そのためには歩行者、自転車利用者、バイク利用者、ドライバー等、それぞれの立場にある家族の皆さんが、折りにふれ、機会にふれ、身近な交通安全の問題について考え、話し合うことが大切です。

みなさんのご家庭や学校、職場、地域において交通安全について考え話し合った内容や方法、その結果実行していることなどについて、作文にしてください。

二、応募締切日
昭和六十三年九月二十日(消印有効)まで

三、応募区分

①小学校低学年の部(一年生及び二年生)
②小学校中学年の部(三年生及び四年生)
③小学校高学年の部(五年生及び六年生)
④中学生の部
⑤母親・一般の部

四、応募方法

(1)小学生の各部及び中学生の部
○四〇〇字詰原稿用紙三枚以内
○作文には、内容にふさわしい題をつけてください。
また応募作品には、応募区分、住所・郵便番号、氏名、学校名、学年、学校所在地、郵便番号を明記してください。

(2)母親・一般の部
○四〇〇字詰原稿用紙五枚以内
○作文には、内容にふさわしい題をつけてください。
また応募作品には、応募区分、住所・郵便番号、氏名、年齢、職業を明記してください。

○送り先
〒100 東京都千代田区霞が関三十一一
総務庁交通安全対策室 交通安全作文募集係

児童生徒の保護者の皆様へ！
他市町村へ転出した場合、又は、町内で校区外へ転居した場合は、速やかに転校手続をして下さい。詳しくは、町教育委員会 ☎5-3655まで

広島市へ平和交流団派遣

町民と共に平和事業を推進

町(平安恒政町長)では、八月四日から七日までの日程で被爆地、広島市への「西原町平和交流団」を派遣した。



広島市へ平和交流団10名を派遣
：8月4日、町役場前

これは、昭和六十一年十二月、人類の生存と平和を大事にする立場から決議された、「西原町非核反戦平和都市宣言」を受け、平和事業を町民と共に推進し、平和の尊さを平和に対する意識の高揚を図ろうというものである。

交流団は、広島市で開催される「非核都市宣言自治体連

共に手を取り心のふれ合い

町社協合同激励ピクニック

町社会福祉協議会(宮平吉太郎会長)主催、昭和六十三年西原町心身障害児者世帯並びに母子・父子世帯合同の激励ピクニックが八月十六日午前より町民体育館において実施された。

今回の合同激励ピクニックは、雨天の影響を受け、場所を変更して実施されたものでスポーツやレクリエーションを通し、ふれ合う中から友愛

の輪を広げ、健常者と障害者が共に手を取り合って相互の理解を深め、心のふれ合いを高めていくというものである。あいにくの雨天にもかかわらず会場には、百二十名余が参加、午前中は、仲間づくり、ジャンケンゲームなどのふれ合いレクリエーション、午後は、輪投げ、ミニバスケット



輪投げなどの楽しいゲームでふれ合い：8月16日、町民体育館

三区チームが優勝

町体協テニス大会

第三回西原町各区対抗テニス大会(町体協主催)が去る七月二十六日、町中央公民館テニスコート、南西石油コートにおいて開かれた。

大会には、七チームが参加男子複、女子複、混合複によりA・Bブロックリーグ戦の後、順位決定戦を行い、熱戦をくり広げた。

国際交流で親善バレー

町農業青年クラブ

町農業青年クラブ(平良文男部長)では、七月三十日(土)浦添市在の国際センターにお

いて、親善交流バレーボール大会を開催した。



町の農業青年が国際センター研修生と交流：7月30日、国際センター

これは、本町の農業青年クラブ会員相互の親睦を図り、国際センター研修生との情報交換、スポーツ交流を通して国際交流を推進していくというものである。親善交流バレー大会には、町内の農業青年や町役場職員、約二十名余と研修生十四名が参加、親善バレーや交流会などを行い、国際交流と友情の輪を広げた。

七区チームが三連覇

町体育協会(平安恒政会長)主催、第十回各区対抗卓球大会が七月三十一日(日)西原東中学校体育館で開催された。

大会には、六チームが参加A・Bブロックに分かれての四単一複のリーグ戦により熱戦を展開、七区チームが三連覇を達成した。

結果は、次の通り。
優勝―七区(三連覇)
二位―十八区、三位―五区

民謡ショーや琉舞など観賞

町社協一人暮らし老人激励会

町社会福祉協議会(宮平吉太郎会長)主催、「ひとり暮らし老人激励会」が、七月二十一日午後二時から町社会福祉センターで開催された。

激励会には、町内のひとり暮らし老人百五十名余の中、約七十人余が参加、ごちそう



一人暮らし老人激励会のもよう
：7月21日、町社会福祉センター

平和交流団 体験レポート



西原高3年
金城育子

「広島市平和祈念式典」に参加して

八月六日。私は広島市の「原爆死者慰霊式及び平和祈念式典」に参加しました。

一学期の末頃に、西原町からお話があり、めったにないチャンスだと思い、学校を代表として喜んで参加させていただきました。

初めのうちは、全く観光気分です。「慰霊式」や「非核都市宣言自治体全国大会」に参加することなど考えもしなかったのですが、「私は、一体何をしに広島へ行くのだろうか。もっと深く考えなくては。」

と思うようになり、日頃、何かに留めていても、あまり深く考える事なかった「原爆」について、自分なりに考えてみる良い機会になりました。

期待していた高校生同志の交流は、あいにく行なわれませんでした。三日間の日程の中でたくさんの方とお話することができ

「平和交流団に参加して」



桃原青年会
喜屋武昌健

八月四日から八月七日の三泊四日の日程で、私は「西原町平和交流団」として、ヒロシマへ行きました。私は、青年層の代表として参加しました。

この交流団派遣で、非核都市宣言自治体全国大会や原爆死者慰霊式等に出席し、平和について考えさせられました。

私も含めて、現代の若者は、平和や戦争について殆ど関心がないように思われます。

平和な今だから、平和の有難さを感じます。

「平和交流団に参加して」

が薄らぐでしょう。誰も、経験したことがあると思えますが、病気になるまではじめて健康の有難さがわかるように、社会が健康で平和だと、その有難さを知り得ることが出来ずに居るのです。

ヒロシマをはじめ、それぞれの自治体では、平和教育や平和事業が盛んに行なわれています。

我々の沖縄県でも、そのような平和運動が見られますが、沖縄では、軍事演習が日常茶飯事に行なわれているため、特に若者の感覚が麻痺してしまい平和に対しての考えが風化してしまっているように思われます。

だから、若者に平和を考える機会を与えるために、行政の側から平和運動を広げる必要があると感じました。

そのような意味においても今回の体験は、私にとって意義深いものでありました。

第9回西原町陸上競技大会：昭和63年9月17日(土)・18日(日)

(9月17日(土) 西原東小学校(円盤・やり投げ) 午後2時より
西原中学校(百メートルハードル) 午後5時より
9月18日(日) 午前9時より 西原中学校)